はじめに　神仏習合の聖地「日光」

～文化遺産と自然との融合の歴史～

日光の歴史は、勝道上人が男体山の登頂を決意し、大谷川を渡り、四本龍寺を創建したことに始まります。勝道上人は2度の失敗の末、悲願を達成し山頂に祠を作りました。さらに中禅寺湖北岸に神宮寺（後の中禅寺）を建立するなどしました。

こうして日光は、高い山に宿る神を崇めるとともに、その地を観音浄土とする考えが違和感なく共存する「神仏習合」のもと、信仰の聖地「日光山」として繁栄します。

戦国時代に豊臣秀吉公によって日光山の領地の多くが没収され衰退しますが、江戸時代になり、徳川家康公が日光山の領地を安堵すると、日光山貫主に任じられた天海大僧正はその再興に尽力します。

家康公は「日光山に自分を祀ることにより、八州の鎮守となる」という遺言を残し、二代将軍秀忠公は東照社を建立しました。三代将軍家光公は、当時の芸術の粋を集めて絢爛豪華な社殿に造り替えました。これが世界に誇る現在の日光東照宮です。日光は東照宮が鎮座したことにより、その門前町として栄えました。その後、家光公の霊廟として大猷院が建立されると、幕府のさらなる庇護を受け発展しました。

明治以降も、文化遺産と豊かな自然が融合する日光は、世界的な観光地として歩んできました。1999（平成11）年、「日光の社寺」は世界遺産に登録されました。

日光神領とは

江戸時代における日光山の領地をいい、東照宮領1万石と大猷院領3千6百石余とを指します。これらを総じて日光神領と呼ばれ、幕府によって管理されていました。

最終的な区域は現在の日光市域と同じくらいであり、総石高も2万5千石という大名並みの領地となりました。

■日光歴史年表

～今なお残る雄大な自然は、神仏の住む地として崇められていた～

- 766年　勝道上人四本龍寺創建（輪王寺の起源）
- 782年　勝道上人男体山初登頂
- 山頂に神祇を祀る。（二荒山神社奥宮）
- 817年　勝道上人入寂

～天下統一を成し遂げた将軍家康公は、平和を願い、この地から日本を守る神になりたいと願った～

- 1616年　徳川家康公薨去
- 1617年　二代将軍秀忠公、東照社竣工（東照宮の起源）
- 久能山から日光に遷座
- 1634年　三代将軍家光公による東照社の大造替工事始まる。（寛永の大造替）
- 1636年　東照社の大造替完了
- 1645年　東照社に宮号宣下され、東照宮と改める。
- 1651年　徳川家光公薨去
- 1652年　四代将軍家綱公、大猷院廟の造営に着手
- 1653年　大猷院廟竣工

～自然と人の叡智がつくりあげた宝物を守る～

- 1934年　日光・奥鬼怒地域が日光国立公園に指定される。
- 1950年　那須甲子・塩原、藤原、栗山、足尾の四地域が日光国立公園に追加される。
- 1999年　「日光の社寺」が世界遺産に登録される。
- 2005年　戦場ヶ原などの「奥日光の湿原」がラムサール条約湿原として登録される。

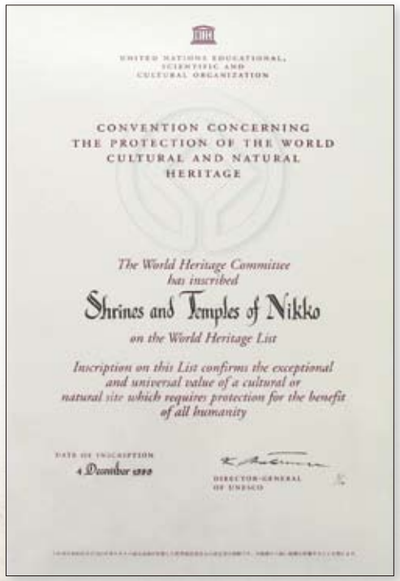
～至高の日光を未来へ届けるために～

- 2007年　東照宮、輪王寺および二荒山神社にて平成の大修理が始まる。
- 2012年　男体山開山1230年祭（二荒山神社中宮祠）
- 2015年　東照宮400年祭（東照宮）
- 2016年　家康公鎮座400年（東照宮）
- 日光山開山1250年（輪王寺）

”人類の宝“世界遺産

1999（平成11）年12月2日、モロッコのマラケシュで開かれていた第23回世界遺産委員会で、「日光の社寺」の世界遺産登録が決定しました。その知らせが地元日光にもたらされると、日本時間の深夜だったにもかかわらず、登録を心待ちにしていた市内は、大きな喜びに沸きました。

1972（昭和47）年、第17回ユネスコ総会において「世界の文化遺産および自然遺産の保護に関する条約（通称・世界遺産条約）」が採択され、日本も1992（平成4）年に世界遺産条約の締結国となりました。世界遺産条約が生まれたのは、地球上に存在するさまざまな文化遺産や自然遺産を、特定の国や民族のものとしてだけでなく、世界のすべての人にとってかけがえのない〝宝物〟として保護していこうという考え方からです。「日光の社寺」の世界遺産登録は、日本国内では10番目でした。



世界遺産登録証
1999年第23回世界遺産委員会で登録が決定された。

日光の社寺とは

登録の対象となった「日光の社寺」の内容は、日光山内にある二社一寺（日光東照宮、日光山輪王寺、日光二荒山神社）の国宝9棟、国指定重要文化財94棟の合わせて103棟の建造物群と、これらを取り巻く「遺跡（文化的景観）」です。面積は50・8ヘクタール。周辺には373・2ヘクタールの緩衝地帯が設けられました。

登録に際して以下の3点の基準において評価されました。

①人間の創造的才能を表す傑作であるもの

日光の建造物の多くは、17世紀の日本の代表的な天才的芸術家たちの作品群です。日本画の狩野探幽や大工棟梁の甲良豊後宗広らにその例を見ることができます。

②人類の歴史上の重要な段階を物語る建築物、あるいは景観を代表する優れた見本であること

東照宮の本社と輪王寺大猷院霊廟は、「権現造」という様式の代表的な例です。近世日本の霊廟や神社の建築の見本となり、多大な影響を与えました。また、建造物群は全体として周囲の景観と一体となって配置され、日本を代表する宗教的建築群となっています。

③普遍的な価値をもつ出来事、伝統、思想、信仰、芸術に関連するもの

日光の社寺の中で東照宮は徳川家康公の神霊を祀る神社として、幕府から神領が寄進され、代々の将軍の社参、朝廷からの例幣使の派遣、朝鮮通信使参詣などが行われました。日光は、江戸時代の政治体制を支える重要な歴史的役割を担った場所といえます。また、これらを取り巻く自然環境は、山や森を神格化する日本独特の神道思想と密接に結びついています。

【日光東照宮】

日光東照宮は、国宝8棟と重要文化財34棟の合わせて42棟が世界遺産に登録されました。「権現造」の建築様式ほか、彫刻や彩色などの建築装飾についても、当時の最高水準の技術が用いられています。

主要な建物群は表参道から石鳥居をくぐって参拝する陽明門、本殿、奥社までの間に集まっています。ほかに神橋そばの御旅所、浩養園内に移築された石造の旧奥社唐門・鳥居、石鳥居の東側の仮殿建築群も登録されました。

【日光山輪王寺】

日光山輪王寺の登録建造物は38棟あります。中心となっているのは、本堂（三仏堂）の周辺と三代将軍家光公の霊廟である大猷院です。大猷院では国宝の本殿・相の間・拝殿など22棟が登録されています。

日光発祥の地・四本龍寺の観音堂と三重塔、弘法大師が建立したとされる児玉堂、天海大僧正を祀る慈眼堂、勝道上人を祀る開山堂も登録されています。

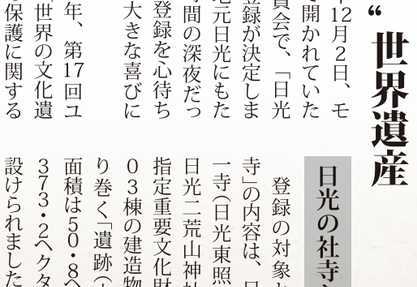
【日光二荒山神社】

日光二荒山神社で登録されている建造物は23棟で、すべて重要文化財です。神橋や本社などのほか境内末社に位置する朋友神社および日枝神社、大国殿や別宮の本宮神社と滝尾神社の主だった建物も登録されました。本宮神社と滝尾神社は、それぞれ登録地の東端と北端に位置しています。

【遺跡（文化的景観）】

文化的景観とは自然現象と人間の活動が影響し合って形成された環境ともいうべきもの。世界遺産を捉える視点として新たに設けられた概念とされます。「日光の社寺」では遺跡として文化的景観が形成されていると認められました。その内容は①江戸時代における歴史的役割を果たした日光山内　②宗教的活動空間と一体をなす石垣、階段、参道など　③古代以来の日本的宗教空間を継承する山や森などです。

建造物群だけでなく、周辺の環境も意味や価値をもっており、一緒に登録されたのです。


東照宮は権現造の本社を中心に社寺建築の精華といえる。

優美な八棟造の二荒山神社の本社本殿。

輪王寺の三仏堂。現在大がかりな保存修理が行われている。